

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第52号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



報告(1)・令和7年度第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 小学生の部 3位

令和7年9月14日(日)大阪府 おおきにアリーナ舞洲(舞洲アリーナ)において標記大会が開催されました。大会には全国47都道府県(大阪府2チーム)中学生、小学生各48チームが出場しました。試合は3チームによる予選リーグにおいて1位チームによる決勝トーナメントが繰り広げられました。長崎県からは小学生の選手5名、中学生は選手5名補欠2名が代表選手として出場しました。試合結果は小学生の部は予選リーグ2勝0敗で1位通過し、決勝トーナメント1回戦群馬県に1-1の代表戦となり、大将の山本清翔がメンを決め、準々決勝に進出し、熊本県に4-0で快勝、準決勝戦では優勝した大阪府Aに0-3で敗れたものの、令和4年度以来の3年ぶり3位入賞を果たしました。中学生の部は予選リーグ1勝1分けて1位通過し、決勝トーナメント1回戦で優勝した愛知県に2-2の本数差で敗れ、ベスト16でした。

(大会結果詳細は県剣連ホームページに掲載)

【小学生の部】

優勝 大阪府A、2位 岐阜県 3位 長崎県、静岡県



【中学生の部】

優勝 愛知県、2位 和歌山県、3位 熊本県、岐阜県



小学生の部 3位 長崎県代表チーム

【小学生の部】3位入賞

【予選リーグ】Dブロック 長崎県1位 通過 2勝0敗

- 長崎県 3-1 宮崎県 △
- 長崎県 3-0 栃木県 △

【決勝トーナメント 1回戦】

- 長崎県 1-1 群馬県 △
- 代表戦 ○山本 メー 井田△

【決勝トーナメント 2回戦】

- 長崎県 4-0 熊本県 △

【準決勝戦】

- △長崎県 0-3 大阪府A ○

監督	安永 誠			
先鋒	大浦紅葉	女	日野小	6年
次鋒	佐藤 資	男	長大付属小	6年
中堅	太田瑛裕	男	愛野小	6年
副将	木村朝光	男	小栗小	6年
大将	山本清翔	男	石木小	6年

小学生・中学生・スタッフ 長崎県代表チーム

【中学生の部】ベスト16

【予選リーグ】Nブロック 長崎県1位 通過 1勝1分け

- 長崎県 1-1 栃木県 □
- 長崎県 2-0 岡山県 △

【決勝トーナメント 1回戦】

- △長崎県 2-2 愛知県 ○

監督	下田桑太郎			
先鋒	馬場雪鶴	女	有明中学	3年
次鋒	山口蘭花	女	西諫早中学	3年
中堅	田添喜有	男	玖島中学	3年
副将	長田知優	男	玖島中学	3年
大将	鈴木晴馬	男	島原第二中学	3年
補欠	松坂心花	女	川棚中学	3年
補欠	森本創介	男	玖島中学	3年

報告(2)・令和7年度全日本剣道連盟後援 幼少年女子剣道講習会

令和7年9月21日(日)諫早中央体育館(メイン・サブアリーナ)において標記の講習会が実施されました。本剣道連盟では、本年度の基本方針である「幼少年剣道人口減少傾向を阻止し女子の剣道人口増加を図りつつ、女子指導者の育成を図る」事を目的として、全剣連の後援を頂きました。講師には剣道教士八段國友秀三先生をはじめ、女子有名選手の方々を招聘して午前中に幼少年を中心に講義及び実技について講習会がありました。午後からは一般女子を対象とした子供達への指導法と実技及び剣道基本指導があり、講習会最後には合同稽古会が実施されました。受審者全員が楽しみながら真剣に取り組み、今後の子供達の指導に活かしたいと感想を述べていました。

(幼少年女子剣道講習会詳細は県剣連 HP に掲載)



幼少年女子剣道講習会に参加した女子剣士・県剣連役員集合写真

幼少年女子剣道講習会に参加した全員での集合写真

講師：國友秀三先生教士八段、飯田通子先生教士七段、山田博子先生教士七段、下川美佳先生教士七段、渡邊タイ先生六段

【参加者】初心者 65名＋防具着用者 290名＋一般女子 39名 女子委員会 7名＋県連役員・事務局 名 合計 405名

幼少年女子剣道講習会に参加して 原田朋子 (諫早市剣道協会)

『かめはめ???派っ!!!』から始まった初心者組の講習会は、子どもたちの目がキラキラと輝いていて、終始楽しそうでした。すりすりレーや新聞切り、新聞ボール打ち、紙風船割りと遊びを取り入れ、かつ剣道の要素もしっかり含まれており、大変勉強になりました。全剣連から5名の講師陣が来てくださり、世界大会経験のある下川先生、渡邊先生の話の中に『長く続けているとチャンスは必ずどこかにある!』『諦めない気持ちが大切』『やるしかない!』という言葉がありました。私自身に対して向けられた言葉であると同時に、それを子ども達へ伝えていかなければならない責任というの改めて感じました。なぜ、幼少年女子だけの講習会だったのか?そのことも頭に入れ、今回の学びを道場へ持ち帰り、稽古に励みたいと思います。

幼少年女子剣道講習会を受講して 山領伊都子 (佐世保市剣道協会)

下川先生の「剣道の魅力は、幼少年から前の先生方くらいまで稽古を一緒に永くできる事です。また、渡邊先生の「小3の時に試合で負けて、いつか日本一になりたいと稽古を続けていたら実現しました。皆さんもぜひひやえてください。」などの講話後、渡邊先生の見本に続き「大きな声とまっすぐ打つ」を合言葉に稽古しました。初心者剣道体験では飯田先生と山田先生から、ゲーム感覚だけど武道として最初と最後に礼をし、面小手胴じゃんけんで打突部位を覚え、手刀での打ち方や間合いや摺り足のゲームをしてから竹刀を持つと、怪我なくできる楽しい指導があり、午後から女子受講生も実践。國友先生の基本打ちの指導と共に、指導者としてお手本になる所作など「剣道は自分の心を映す鏡」と習い、真剣に学び、お互いに親しみ合い、とても良い講習会でした。熱心にご指導いただいた講師の皆様、準備いただいた役員の先生方、有難うございました。



下川先生、渡邊先生の講話



新聞ボール打ちをする初心者



新聞ボールを投げる飯田講師と山田講師



防具を付けて基本稽古



合同稽古での渡邊タイ講師



合同稽古での下川美佳講師

報告(3)・令和7年度第2回長崎県剣道連盟二道体験会(居合道・杖道)

標記体験会が令和7年9月6日(土)諫早市森山スポーツ交流館において実施されました。本県剣道連盟の事業重点事項に「三道(剣道・居合道・杖道)の交流を図り、それぞれの技術向上を図る。」と掲げられています。また、三道を通しての親睦及び技術向上並びに資質向上の体験会を行う事を目的としています。その事を受け、剣道経験者や剣道連盟一般会員を問わず、中学生・高校生を含めた体験会となりました。体験会の体系は参加者を2グループに分け、午前中はA班居合道体験、B班杖道体験、午後からはA班・B班を交代して行いました。講師には杖道錬士七段橋本幸一先生、居合道教士七段高木志伸先生で、各々講話及び実技指導がありました。剣道八段の先生や剣道を始めたばかりの中学生、剣道などの武道体験が初めての方達が、それぞれ真剣に取り組んでいました。

(二道体験会詳細は県剣連 HP に掲載)

【体験会参加者】講師及び補助講師 4名+参加者 38名 合計 42名



報告(4)・令和7年度 第7回長崎県居合道演武大会

標記大会が令和7年9月14日(日)諫早市小野体育館サブアリーナにおいて開催されました。演武大会には3人一組の団体戦で8チーム24名が出場しました。先鋒(段外から三段)、中堅(四段、五段)、大将(六段、七段)で各段とも年齢の制限なし、予選リーグ、トーナメント形式で実施し、指定技は全日本剣道連盟居合の12本の中から、1本目(前)、6本目(諸手突き)、11本目(総斬り)の3本で競い合いました。

(居合道演武大会詳細は県剣連 HP に掲載)

優勝	生武館 A	大村市	久富優希、中野武士、川見秀人
2位	友劔混成	島原市	武藤航至、宮崎フサ子、宮崎大輔
3位	遊道混成	長崎市	ノス・チャド、天野秀明、畑中健佑
3位	葉志塾 A	佐世保市	山領紗矢香、中村竜一、作永憲昭



読み物(1)・・・剣豪「昭和の剣聖：滝沢 光三範士」・「剣道大成への必須条件」(現代剣道百家箴より)

滝沢 光三(剣道範士九段) 明治43年10月20日-昭和62年(76歳)

日本国内だけでなく、世界中に剣道を紹介普及し、長年剣道界の発展に貢献致しました。また、警察庁退官後、生まれ故郷の厚木に思齋館滝澤道場を設立し、厚木の剣道発展に尽力しました。

「鍛錬」という厳しい練習

戦前の剣道の練習法は、一にも稽古、二にも稽古といわれ鍛錬という厳しい練習に重点がおかれ、試合は第二義的に考えられていた。ところが戦後における練習法は勝敗に重点がおかれて試合本位の練習が支配的になってきている。

剣道の練習が試合本位になり過ぎると基本からはずれた小手先きの剣道になるおそれがあることを心しなくてはならない。現在でも一般、学生を問わず全国的規模の大会において優勝するような選手は論外なく基本が身についた地味な選手が多いといえる。戦前のように鍛錬の練習にのみ重点をおきすぎても現代の剣道人には受け入れられないであろう。だからといって試合本位の小手先のわざであってはならない。練ることのみに片寄せず、また試合本位の練習にも片寄らない両者の長所を取り入れた現代的指導法の確立こそ剣道指導上の重要な課題である。

「基本が身につけている」気分一杯に体力をかけて打つ剣道

剣道で基本が身につけているということは気分一杯に体力をかけて打つ剣道であるといえる。師や先輩がやかましく教えた点である。そのため修業の初歩的段階においては、一年以上も切り返し(注1)と、かかり稽古(注2)の繰り返しであって単純な面白からぬ稽古の連続ではあったが、今にして思うところ稽古によって最も基本となる気力、体力が養われたものと自己の経験からもそう信じている。このように当時、切り返し、かかり稽古は基本作りの最もすぐれた練習法として重視されてきたが、現代では試合を重視するあまり軽く扱われている傾向を見るのは憂慮にたえない。

「生涯楽しめる剣道」を身につけることがのぞましい

剣道が他のスポーツと異なる一つの特徴は生涯体育であることである。このような見地からも、学生生活中だけのものだけでなく、また職場で義務づけているからというその場限りの剣道でもなく、生涯楽しめる剣道を身につけることがのぞましいのであって、そのためにも初歩的修得段階に於いて充分基本を身につける機会を持つべきである。それがとりもなおさず剣道大成への早道でもあり、生涯楽しめる剣道にも通ずるものである。

「気、剣、体一致」のわざで相手を打つことが技術の最高目標

剣道は気、剣、体一致のわざで相手を打つことが技術の最高目標である。そのための心の持ち方、わざの巧使(ママ)、体の運用などいずれも昔時から実践を通じて作られた尊い教えが数多くある。例えば、五輪書「打と当てるとのこと」、捨身の精神を教える古歌、一刀流の「一つ勝(切り落し)」等々、こうした古典のすぐれたものを取り入れ現代的に修正して、練習法が安全で、かつ能率的であり、しかも、剣道本来の厳しさ、激しさが常に剣道の練習の中に求められるようにすべきである。

注1、切り返しは大きく伸び伸びと、打つ角度は正確に、

注2、かかり稽古は大きく伸び伸びと、間断なく、元立の体の中心を割るように打ち込む。

両者をあわせ得たいものである。



思齋館滝澤道場にて



滝沢光三範士 手拭い文字



京都大会 昭和62年5月 第35回大会